



いずみさの昔と今 第285回

「織豊期の泉佐野―豊臣秀吉の紀州攻め―」

今回は前号に引き続き、10月より開講予定の歴史学講座「戦国史編―織豊政権と本願寺―」に関連して、「織豊期の泉佐野―豊臣秀吉の紀州攻め―」について紹介します。

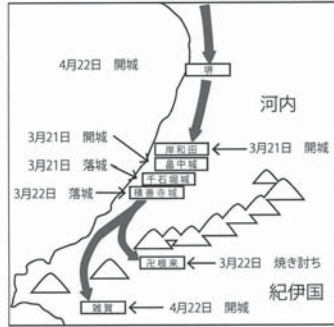
天正10（1582）年、織田信長は本能寺で明智光秀に討たれます。光秀は信長を討つた後、雑賀衆の土橋重治に書状を送り、雑賀衆や根来寺、高山で相談し、和泉と河内へ出兵するよう依頼します。後に光秀は豊臣秀吉に山崎の合戦にて敗れ、敗走の後、落ち武者狩りにあって落命。本能寺の変で信長だけでなく、信長の嫡子信忠も死去していたため、秀吉は清須会議にて信忠の子である三法師を後継者とします。しかし、この秀吉が主導であった後継者の決定は、すべての人にとって異論のないものであるとは言えませんでした。

天正13（1585）年3月、秀吉は自身と敵対する紀伊の惣国一揆（そうこくいっき）を討つため和泉国へ進軍すると、同月20日に岸和田城へと入城します。一揆勢は近木川（こぎがわ・現貝塚市）沿いの千石堀城・畠中城・積善寺城・沢城（すべて現貝塚市）、および佐野城に立てこもりま

した。明くる21日に千石堀城は落城、これを受けて畠中城に籠城していた軍勢は、自ら城に火を放ち、退却。続いて翌22日に積善寺城、23日には沢城も相次いで落城しました。勢いそのままに秀吉は根来寺に進軍し火を放ち、根来寺は焼け落ちました。秀吉の勢いは止まらず、秀吉と敵対する織田信雄（信長の次男）と徳川家康に与した湯川氏の館を攻め、畠山貞政らを討ち取りました。この間に信長の命によって佐野に築かれた佐野城は、落城したとされています。その後秀吉は一揆勢が立てこもる紀伊太田城（現和歌山市）を水攻めの後降伏させ、ついに和泉・紀伊の一揆が解体されることとなりました。一揆の統率者を打ち首にしたものの、秀吉は朱印状を発給し、百姓たちは殺さず武器を所持することを禁じました。

和泉・紀伊の一揆解体を契機に、和泉国は豊臣政権下におかれることとなり、大部分が豊臣氏の代官によって支配されたと思われまます。さらに秀吉は石山合戦の後、大坂を退去して鷺森（現和歌山市）から貝塚に移されていた本願寺を天満中島（現大阪市北区）

に移転させます。これは本願寺と和泉・紀伊の一揆が強い結びつきを持っており、それらを切り離すといった意味を持っていったといわれています。信長の約10年に及ぶ石山合戦や雑賀攻め、さらに秀吉による紀州攻めが泉州地域に及ぼした影響は非常に大きいものでした。根来寺の衰退や多数の在地勢力の移封などは、その代表例といえるでしょう。織豊期の泉佐野は大坂、紀伊にはさまれ、寺社勢力と在地の勢力によって支配される、非常に不安な地域だったといえます。



▶ 秀吉の侵略

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、祝日（祝日が月曜日の場合は月曜日と火曜日が休館）
開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
入館料 無料

日本遺産・中世日根荘を巡る②

～絵図編（1）「日根神社」～



「日本遺産」に認定された「旅引付と二枚の絵図が伝えるまち―中世日根荘の風景―」のストーリーを構成する泉佐野市の文化財等を紹介しします。
問合せ先 文化財保護課



◀ 日根野村絵図に記された「大井関大明神」
日根神社

約800年前に描かれた「日根野村絵図」に、「大井関大明神」と記されている所が、現在の日根神社と考えられています。日根神社は樫井川流域の開発と関係が深い神社で、日根荘全体の鎮守でした。「大井関」の名は境内を流れる井川を司る神社であったことに由来するものと考えられます。また「旅引付」には、毎年4月2日に祭礼があり猿樂の奉納や競馬、弓矢神事などが盛大に行われていたと記されています。九条政基が帰洛後、豊臣秀吉の紀州攻めにより焼失しますが、秀頼により再建され、現在は本殿と比売神社本殿が大阪府指定文化財となっています。毎年5月に飾りまくらをつけた3基の幟が五穀豊穡や安産などを願って巡行する、まくら祭の宮入りが日根神社で行われます。まくら祭は泉佐野市指定文化財に指定されています。また毎年7月には、樫井川の水源の安全と夏の災厄除けを祈願する「ゆ祭り」も開催され、五社音頭の踊りなどが奉納されます。



※絵図の写真は、歴史館いずみさの所蔵の複製を使用（原本は宮内庁書陵部所蔵）